

第6回 広域ごみ・汚泥処理施設整備検討委員会まとめ（要点筆記）

《開催日》 平成22年7月23日（金） 午後1時30分から  
《場 所》 豊岡市立図書館 視聴覚室  
《出席者》 委 員：寺嶋均、市川陽一、本庄四郎、松永正博、  
筑本壽晴、宇都出敏文、池田登志、山村紀久子、  
尾崎美津人、梅林耕一、杉本章、橘清治（敬称略）  
組 合：組合職員 8名  
合計20名

《内 容》 委員会次第

- 1．開会
- 2．協議事項  
生活環境影響調査結果の縦覧に係る意見書について  
用地取得の状況について  
啓発機能計画について
- 3．その他  
次回の開催日について
- 4．閉会

### 【質問・意見等】

(生活環境影響調査結果の縦覧に係る意見書について)

- ・意見書を出されている方は、結果を納得されていない。コンサルではなく、民間で調査をすれば理解が得られたのではないか。
- ・結果を納得されていない方は、施設建設について反対であり、誰が調査をしたから反対というわけではない。
- ・どこの都市でも反対者からしか意見は出ない。計量分析について信用できないと言われる方もあるが、計量分析の受託者は国が認定した機関しか受けることができない。
- ・多くの意見が出ているが全てに対し答えていない理由は、生活環境の見地からの意見ではないので、本来、そういう意見は出せないことになっている。そういう問題にはここでは答える必要はなく、別の所で問題提起をさせていただくことになる。
- ・生活環境影響調査の開始前に理解を得ていないとあるが、そのような手続きは必要であるのか。
- ・上郷の時は調査に入ることを区で諮られて否決されたため、調査に入ることができなくなった。森本区・坊岡区では、受け入れていただくことを前提に基本協定を締結している。
- ・生活環境影響調査については、候補地決定後には広報紙や説明会の場などで説明をしている。
- ・こういった施設は公共性の高い施設であり、反対があるから造らないということができない。都市部では、生活環境影響調査は反対があっても調査を行っている。
- ・見解については、学識委員とも相談しながら精査し修正していくこととする。

(用地取得の状況について)

- ・用地の取得状況が現段階では虫食い状態のため、周辺整備計画は先送りすることとし、取得ができた段階で改めて協議することとする。

(啓発機能計画について)

- ・学習室には、パネルや資料を整備し、処理状況をモニターで確認できる等、事前学習ができるようにしてはどうか。
- ・ミーティング室や調理室等を整備し、誰もが利用しやすく集客性のあるものを整備してはどうか。
- ・作業場としては、再生品としてパッチワーク等ができるようなものを整備してはどうか。

- ・啓発機能のテーマとして、適正処理、再資源化、環境保全や再資源化、生物多様性（自然の再生等）といったもので考えてはどうか。
- ・資料室として、映像・パネル・模型・パソコン等を利用して整備を考えてはどうか。
- ・誰を対象にするのか。小学生や高齢者に絞ることも考えられるのではないか。
- ・再生品やフリーマーケットはリピーターがない。
- ・PR機能や情報発信が必要である。
- ・集客を考え、里山を利用した自然学習や遊びの場を創出してはどうか。
- ・社会見学等に訪れる小中学生を対象にしたパネル展示やビジュアル的なものを整備してはどうか。
- ・四季型の環境を整備することにより、広い世代が利用できるのではないか。ただし、造ったものではなく、自然に近い状態での整備が必要である。自然のままの形で四季を感じることができることが大事である。
- ・造ったものではなく、自分達で造っていくことが重要である。
- ・再生・修理の工房等、基本的機能は必要であると思う。常設ではなく、定期的で開催するなど、需要に合った形態が良い。

#### 【結果等】

- ・施設整備検討委員会として、（仮称）北但クリーンセンター設置に係る生活環境影響調査の結果について、内容を確認し、生活環境の保全上の見地からの意見並びに事業者の見解の報告を受け、本調査の総合評価である「総合的に見ても生活環境の保全に支障のないものと評価しました。」との記述は妥当なものであることを確認したことを管理者に報告する。